

四谷の

千枚田だより



第 103 号

奥三河自然満喫ツアー

主催 愛知県新城設楽山村振興事務所環境課・企画運営 鳳来寺山自然科学博物館友の会はつなげようCOP10の成果2012生物多様性セミナー 奥三河自然満喫ツアーと題して二月二十五日・二十六日の両日、一般参加者を募り総勢五十七名をもって開催された。(前号参照)

二十六日、山びこの丘を早朝出発した一行は「おしどり」見学を行ったがあいにくアマゴ釣りのためか優美なおしどりの姿は見られなく残念な結果となったようだ。

四谷の千枚田では急傾斜地で厳しい作業条件を課せられているが、湧き水、天日干しのこれ以上贅沢なお米はどこを探してもない。さらにモリアオガエルやヤマアカガエルを人為的に繁殖、再生までに至った。今はオタマジヤクシを追いかけるヤマカガシやシマヘビも増え、除草効果が活かされた。また、カエルは稲の害虫駆除に大活躍してくれる。空からはこれらを狙うワシタカ類も飛来するなど生物多様性に富ん

だ棚田で殺虫剤を極力使わず、「生きものと共生した体にやさしい米作り」に変身しつつある。



ビオトープでは繁殖、自然再生したヤマアカガエルの卵やオタマジヤクシがみられた。ヤマアカガエルは二月の一番早い雨の日に必ず生まれる。今年は生まれた直後に零下8℃の寒い日があったが、卵はゼリ

ー状で保護されており、このように全部オタマジヤクシに成長している。等々、自然の力の強さ、凄さを説明した。

途中、貝の化石を前に千七百万年前は海であったことや十王堂伝説や歴史、文化を語りながら高低差二百メートルの「ふれあい広場」に到着。

昼食は棚田米の五平餅を練りかき焼きたがりまですべて参加者で行った。博物館に尽くすスタッフのアイデアで自ら作った五平餅の串にそれぞれの名前を書いて焼きあげたのには感心した。



三河の山里現地見学ツアー

愛知県地域振興部では三河の山里をCSR活動や研修の場として活用したい企業・NPO・大学等の参加団体を募集した結果予想を大幅に上回る結果となり三十八事業所四十人を受け入れ、ツアーを開催した。(募集内容は前号で紹介)

三月二日、参加者は「山びこの丘」を会場に奥三河で活動する団体の紹介を終え、四谷の千枚田の現地見学が行われた。ここでは見たとおり作業効率も悪く、生産性に乏しい段々田んぼを先祖の遺産として守り、後世に引き継ぐため、耕作者は頑張っている。この厳しい実情を察した地元企業「横浜ゴム」や外資系の「アストラゼネカ社」などの労働参加も受け入れている。また、豊橋調理製菓専門学校、地元新城高校、三河の山里ツーリズムのリーダーによる「棚田の楽耕」等々が田植えから収穫までの稲作体験を実施している。生産性を考えると嫌になっってしまうが、恵まれた環境、おいしい空気、憩い、潤いを求める皆さんに銭勘定なしで一服の良薬となればと地域ぐるみで頑張っている。だから、ここでは自動販売機もない。私たちが棚田保全に頑張るから、皆さんの応援を願う。と結んだ。

ベンチ補修

古宿の「ぼつとり」前のベンチが腐食し、危険また、景観上思わしくなく、県設楽農水事務所建設課に窮状をお願いしたところ、ふるさと指導員活動支援物資としてベンチ材料一式が支給され、三月四日、七日の両日保存会の高橋孝行、今泉雅男、小山孝夫、小山舜二で補修を行った。



花草だんご

身平橋の海源寺ではお釈迦様の命日である三月七日、涅槃図を掲げ村人に「花草だんご」を振る舞う年中行事を行った。この行事はほとんどの集落では衰退し、連谷地区では唯一、身平橋のみが実施している。



花草だんご
お釈迦様をお詣りに来た人に配られる。

村の繁栄は「まつり(年中行事)」が不可欠で、伝承文化が継続されている集落は団結力、協調性が強く感じられる。昔から伝わる年中行事はそれぞれに深い意味、意義を呈して現在まで脈々と伝承されている。これらを「めんどくさい」とか「嫌いだ嫌いだ」で片付けるのはもったいない。特に飽食の時代の現在、隣近所も疎遠になりがちである。当屋が面倒くさいとか掃除が面倒だとか、よく声を聴く。昔は人が集まると家に風が通り幸せが来ると喜ばれたものだが、時世が変わると文化まで衰退する。年中行事を「むらの原風景」として継承したいものだ。

お待たせしました

崩落した作業道(景観道)がいよいよ補修工事に入った。工期は三月末で、二回目の田耕しには間に合う予定である。

新入社員研修(予告)

四月四日、恒例となった横浜ゴム新城工場の新入社員研修を受け入れる。棚田っ娘、連谷お助け隊、保存会も大勢参加し、フレッシュマン達に新城市は棚田という宝があり環境に恵まれた地域であることPR、定住させてしまおうような楽しい研修会にしたいと思う。

千枚田に春がきた

ビオトープに繁殖、再生したヤマアカガエルが今年初めての雨の日(二月二日)、に初産卵し、降る雨ごとに産卵が続いている。今年は例年になく厳冬で産卵直後に零下8℃以上の日を記録したにもかかわらず全部の個体がオタマジャクシになり元気で泳いでいる。



元気に泳ぐオタマジャク

三月十日、雨が上がった直後からアズマヒキガエルの合唱がはじまった。午後、そおと観察している

と一匹の雌に八、十数匹の雄が群れ集まり交尾が始まった。可哀想に雌は雄の重さに泥の中で窒息状態になり放卵している。産卵中、助けのわけにも行かず観察を続けた。



仮設トイレの現状

台風十五号で作業道が崩落。仮設トイレが満杯になったもの汲み取りができず使用禁止の状態が続いている。付近の茶畑や梅畑が「うんこ」だらけで皆んな頭を抱えている。

四谷の千枚田だより

(HP 検索)

新城市→観光→自然・四季を満喫する→名勝・史跡・景→千枚田だより

行 平成二十四年三月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
文 責 小山舜二